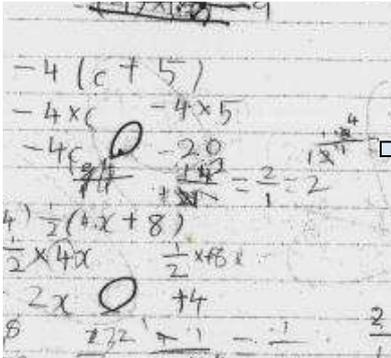
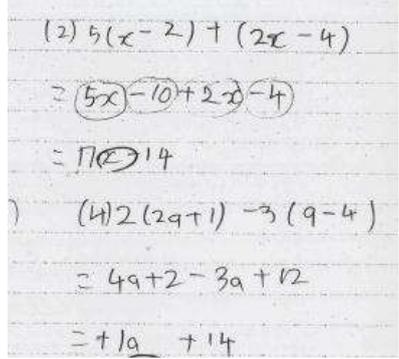


教材・支援機器活用実践事例

【計算が苦手、ノートに整理するのが苦手な生徒への数学の学習支援】

子どもについて	学校・学級・学年	中学校 通常の学級 3年生
	対象の障がい	知的障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○数学が苦手である。</p> <p>○自由に計算させると</p> <p>①隙間なく書き、自分の文字が読めなくなり悩む。</p> <p>②頭で計算しはじめ、分からなくなり、活動が止まる。</p> <p>③支援の指示の言葉数も増え混乱する。</p> <p>という状態になる。そのため、自力で解くことがほとんどなく、支援者のメモや声を頼りにただ書くだけの学習になってしまう。</p>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>【画像】「 ノート指導 」(支援の指示の工夫)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>① <u>支援前</u></p>  <p>*自分で何を書いている分からない</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>② <u>支援後</u></p>  <p>*スッキリすることで、自分でも理解し、計算しやすいノートに！</p> </div> </div>
	活用のねらい	<p>○スモールステップと反復で、わかる・できる内容を少しずつ増やし定着させる。(※すぐ忘れる、とどめておけない生徒に、ノートの活用の仕方、メモ力を付けさせるために支援の指示の仕方を工夫する。)</p>
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>① 数を覚えられない。 → 計算の途中を省略しないように言葉をかける。</p> <p>② 数の操作が苦手である。 → スモールステップで指導する。</p> <p>③ 注意持続が困難である。 → 1行空けてスッキリ書くように支援する。</p>
子どもの変容や評価		<p>① 「2段目はここから。」と支援者がノートに書く場所を具体的に示し、分かるように支援した。</p> <p>② 「() を外してかけ算!」「X (整数) どうし計算!」などの確認をした。</p> <p>③ 必要なまとまりに注意が向かない時には、整数だけを囲むなどして認識しやすくした。</p> <p>指示と同時進行で計算させる支援を行ったことにより、計算を自力で解くこと(時には指導や支援がなくても計算できる)ができるようになり、わかる・できる内容が少しずつ増えてきた。また、ノートをしっかりとれるようになってきた。</p>

